

特集

いまの時代の認知症対策

保健師は何をするべきか

認知症対策の現状と課題 ————— 永田久美子

認知症の基礎知識 早期発見のためのアセスメントツール「CDR」の紹介 ————— 目黒謙一

事例

①人口 20 万人の地域の取り組み

地域で見守り助け合うケアコミュニティづくり 宇治市の認知症予防事業 ————— 高田智恵子

②人口 3 万人の地域の取り組み

認知症になっても自分らしく安心して暮らせる地域づくりを目指して

保健師中心の活動から市全体での活動へ ————— 中島貞枝

介護者支援の大切さ 地域医療の現場からみえるもの ————— 杉山孝博

特別記事

保健師志望の学生に必要な地域看護実習が提供できる環境を目指して ——— 砂山圭子・ほか

編集後記

●「春雨じゃ、濡れて参ろう」。行友李風作の戯曲『月形半平太』の中で、主人公、半平太は、折からの雨にもかかわらず、傘を差し出す雛菊を振り切り、この名台詞を吐きます。雨を全く気にしないその精神は、実に「晴れやか」です。

さて、この編集後記を書いている現在、東京は梅雨真っ盛り。外を眺めれば、今日もシトシトと雨が降っています。アメと一言でいっても、「時雨」「水雨」「涙雨」「霖雨」「驟雨」など、その形容方法は実に多様。雨そのものの捉え方も地域によって様々で、早稲地域では「天の恵み」として尊ばれ、洪水地域では「自然の脅威」として畏怖されます。私たち日本人は、雨を敬う精神は乏しく、むしろ“やっかいなもの”として捉える傾向が強いようです。宮沢賢治の「雨ニモマケズ…」なんて表現は、雨を好意的なものとして捉えていませんね。「雨男」「雨女」なんて表現も、人を(人)

(人) 揶揄するニュアンスとして使われることを考えると、やはり雨は日本人の心に“晴れ”をもたらしきようです。

保健師の皆さんはいかがでしょう？雨が降ると、健康教室など保健事業の参加率が下がるから困る、という人が多いかもしれません。でも、一度、固定概念を脱ぎ捨て、雨を眺めてみてください。遥か上空から降り注ぐ雫に、何ともいえない趣を覚えることでしょうか。雨の匂い、雨の音、雨によって輝きを増す景色。四季がある国に生まれた以上、雨の魅力を察する感性を持っていたいものですね。

日々、仕事をしていると、辛いことややりきれない思いになることはあります。周囲の理不尽な振舞いに、憤りを禁じえないこともあるでしょう。そんなときは、心の傘を閉じて、雨に濡れて帰ってみませんか。嫌なものが洗い流されるかもしれません。「春雨じゃ、濡れて参ろう」。

(和田)

保健師ジャーナル 第64巻8号 2008年8月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価 1,365円(本体1,300円+税5%) 2008年々ぎめ予約購読料15,000円(税込、送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/和田・栗原・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/08/¥250/論文/JCLS が本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。